
馬鹿でも判る兵站輸送

kaitahito

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿でも判る兵站輸送

【Nコード】

N7749J

【作者名】

kaitahito

【あらすじ】

素人は戦術を語り、玄人は兵站を語ると言います。

では兵站とは何でしょう？何故兵站は大切なのでしょう？輸送と軍事の意味をわかりやすく図入りで解説します。

戦場に行く馬がない

中世ファンタジーのお姫様に兵站を教えようとする話

私の名前は勝彦と言う。

色々あって異世界へ飛ばされ、また色々あって、単行本三冊ぐらいの活躍をした後、

故あってお姫様の指南役になっている。

今は勉強の真つ最中だ。

「ところで、軍隊に必要なものって何だと思います？」

講義の内容を忘れないよう紙に書いている姫に聞いた。

「魔法か？違うな、武器だ。

軍隊は総力だからな、一人二人が魔法を使えたところでどうにもならん」

姫と自分は基本タメ口である。

最低限の礼儀は払うが、堅苦しいのは嫌だと言うから。

一応、公的な場では尊敬や謙譲語を使うようにしているが、面倒でならない。

今は勉強中なので少し言葉遣いを厳しくしている。

「食料です。腹が減っては戦争出来ません。

生きるためには飯を食わなきゃいけません。食事を保障するのは基本です。

ただ働きなんて裕福な暇人がやるものですから。
千羽鶴でも折って自己満足してればいいんです。
人なしに組織は成り立たちません。組織が崩れれば軍隊機能としては無力化されます」

『想い出は いつも キレイだけど

それだけじゃ おなか が すくわ』と黒板に盤書する。

「もちろん、食事だけ用意しても駄目ですけどね」

酒

『主は言われた。人はパンのみにて生きるにあらず、赤ワインも欲しいと』

黒板に続けてひんしゆくものを書いた。

此処は異世界だ、PTAや宗教も此処まで追ってくるまい。

「あくまで、食事が人を成り立たせるという意味であります。

衣食足りて礼節を知るとい言葉もありますから」

『想い出は いつも キレイだけど

それだけじゃ おなか が すくわ』

『本当は せつない夜なのに

どうしてかしら？ あの人の涙も思い出せないの』

「何故だ？武器なしには戦えないだろう？」

姫様は不満そうだ。

美人なだけに眉を顰めた顔は余計迫力がある。

剣と魔法の世界に相応しいお姫様かもしれない。

将来凄い美女になると思うがまだ小さい。自分は犯罪者にはなりたくない。

「武器以前の問題です。人を成り立たせているのは飯です。飯や金が保障されなければ容易に集団は解散します。人は弱いのです。ですから群れます」

<命ばかりはお助けを

<オイ！ジジイ！食料と水をよこせ！

「一人は二人に勝てません。

一人の側がよつぽど強ければ勝てるでしょうが、そんな人は稀です。大抵負けます」

<下種どもが…

<あのお方は！

<なんだあゝ？！オメエは

<あたたたたたた！

<ひぎい！あべし！ひでぶ！

<雑魚を始末しただけのこと

<ありがとうございます

*これは例外

「そして互いの数が多ければ多いほど、稀な能力を持つ人間は平均の中に沈みます」

＜僕が一番上手くガンダムを使えるんだ！

＜俺もいるぜ、お前だけになんかイイかつこさせる

かよ、

おまえだけじゃないんだぜ、コーホー

「三十人は五十人の相手に対して勝てません」

* は同じ強さとします

戦場

対 引き分け

対 勝利

×2で黒側の勝利

「政治だろつが戦争だろつが同じ。戦いは数です」

＜戦いは数だよ兄者！

「うん

福をお祈りします。

「そして数を維持するために組織を保たなくてはいけません。

組織が保てなくなる…つまりバラバラになって個々の数が少なくなる」と

多い側に喰われます」

< 民党を支持する

< 民 党を支持する

< 民 党支持が多いので当選ね

< 以上13票がこの地域の得票数となります。

「しかしこの説明には穴が存在します。

一人の人間は二人の人間に勝てませんが、互いの相対数が上下する可能性があります」

戦場

1戦目

対 勝利

対 引き分け

(戦力外)

戦場に遅れてやって来る

白側が1戦勝利

「総力で勝っていても、距離の関係などで競り合いに出られなくなると関係は逆転します」

2戦目

対 勝利

対 勝利

(戦力外)

戦場に遅れてやって来る

白側が2戦勝利

3戦目からは戦力が互角になる

「こつした事態をさせないためにも、連絡などを密にとらなければならず、

組織の維持管理は大切なのです」

<滅多に支持を出さない本部の仕事なんてやってられねー

<お客様がおいでになりました

<.....

「よつて、戦いに勝つために、

敵の力をいかにして分け自分達の力を集めるかに腐心します」

<お主も悪じやのう、選挙の票は任せておけ

<黄金色のお菓子

<これからも越後屋をお願いいたします

「この努力を軍隊流にすると『手法』を戦略、作戦、戦法、戦術、戦技

『組織自体の運営』を兵站と呼ぶことになります。

時代や国によって呼称に多少の違いがありますが、大体同じです」

兵站の意味をどう捉えるか、諸説様々ある。

後方活動の総称、輸送全般、食糧の輸送、

だが自分は兵站とは組織運営そのものと考えている。

組織の構造、権力争い、人事、広報、全て兵站の一部だと思う。

「戦略、作戦、戦法、戦術の違いはなんじゃ？」

「指定する範囲の大きさです。」

例えば私の世界で有名な鬼畜王と呼ばれる方の戦略ですと、

戦略：JAPAN中の美女とやりたい

作戦：隣接する国の佐渡を落として謙信とやろう

戦法：軍隊をおくって征服しよう

戦術：送る部隊の配置と順番は…

となる訳です」

「滅茶苦茶だな」

姫は華やかに笑った。

美人は何をしても絵になる。

「世界平和なんてご大層なもの、

本気で考えるなんてよっほどの世間知らずか馬鹿者ですよ。

えろくててんかとういつでも結果があればいいじゃないですか」

『日本の夜明けは近いぜよ』『地球を守れ！CO2削減！』

なんて漠然とした奇麗事を話されるより、

『女を抱く！ガハハグッドだ！』『金が欲しいか貴様ら！ニューヨーク

ークへ行きたいか！』

と言う俗物の方がよっほど好感が持てるのは気のせいだろうか？

「一般的には、戦略が国の方針、作戦が軍全体の行動、戦法が軍単位の戦闘、

戦術が個人の戦闘と呼ばれています。時と場合によるので話半分に覚えておいて下さい」

『手法』の説明はキリがないので後回しにして『組織自体の運営』を話します」

戦術や戦法の話なんかしていると日が暮れる。

桶狭間やナポレオンについてなんて自分が喋るのをやめられそうにない。

「唐突ですが、100人の民兵と100人の近衛騎士団が同時に戦ったら

どちらが勝つと思います？」

「当然、近衛騎士だ」

「どうしてそう思いますか？」

「練度や装備が違いすぎる」

「その通りです。対決する兵科や相性によっては、

ある意味、戦う前から勝負は決まっていると言えるでしょう」

砲兵は近くで戦うようには出来ていないし、斥候の目的は戦うことではない、監視だ。

ハリネズミのようにフランクス隊形をとった槍兵に突撃しようとする騎兵もいないだろう。

誰だって得て不得手がある。

「では強い騎士を近衛たらしめているものは何でしょう？」

「訓練や身分だ。食事の良いものを摂っているし、馬や弓、鎧がある」

流石姫様、100点満点だ。

『強さ』を聞いて、装備や訓練だけでなく、食事や身分を含めて答えられるのはちょっといい。いずれ賢い女王になると思う。

「そうした条件を揃える事こそ『組織自体の運営』であり、兵站であります」

「漠然としているな」

そういうものだから仕方がない。

兵站はヘリや戦車を購入するのとは違って、直接実感できるものではないから、ないがしろになる。帝国陸軍なんて悪例の最たるものだ。

「兵站とは軍隊の戦闘力を維持するための役割です。物資の補給や整備、休養などの諸々を含めた仕事で、主に情報管理、補給、整備に修理、調達、衛生、警備など保守管理全般を指します」

「戦争と余り関係ないのではないか？」

兵達の胃袋に消えてしまう食料に金を出すより、槍と鎧を買う方がまだ良いだろう」

飯よりも正面装備を、ある意味では間違いではない。

正面装備の充実はハタタリとして使えるし、戦争していないのであれば張子の虎でも十分だ。政治家的な視点。姫らしい答えである。

しかし戦争中となると答えは逆転して来る。

「では、戦争で実際に矢を放ち合い槍を向け合う時間と行軍に使う時間どちらが多いでしょうか」

「行軍が長い、数日間の戦闘のために数十日歩き続けることすらある。」

「だからこそ弓槍を揃える必要があるのだ。効果の高い数日の為に装備を揃える方が費用効果が高い」

「だが彼女は根本的な間違いを犯している。」

部隊の新設ばかり好んだヒトラーやスターリンと同じ愚。

「ですが、武器ばかり揃えすぎても適切に管理できなくなりませう。」

武器は現地に運ばれ、個々人に手が渡るまで配られ、

実際に使われてこそ役に立つのです」

「ならば武器を扱える部隊を新設すればいいのでは？」

「武器だけ用意しても、集め、ひとつの所にそれなりの配置をさせる、

彼らに使い方を教える、道具の為に道具を過不足なく用意する、混乱なく移動する手はずを整える。」

仕事の後、撤収する手はずを整える。残った機材をすべて引き上げる、

出来ればゴミひとつなくしてはいけません。」

また武器と同じことが兵士にも考えられるのです。」

大量の武器があっても兵士は増えませぬ、

使える技能を持った人物が居て初めて兵士たり得るのです」

部隊を増やしても人は増えず、兵器は増えない。人材の数も変わらない。

補修部品がないまま走り続ける飛行機や、

隊が定数を満たさないせいで師団が連隊級なんてことにもなりかねない。」

確かに部隊を新設すれば使える人員は増えるだろう

書

類上では。

実態は中身のスカスカな隊ばかりとなる。

名目上の部隊を増やすだけで兵力が増えた気になり精神の安定を図る。

現実から目を逸らしているだけだ。

書類だけ弄って、名目だけの団体を作り現実から懸け離れる伝統は、

毛沢東の生産計画や年金流用問題として今に受け継がれている。

徴兵だけで使える兵士が増えるのはファンタジーと脳内だけだ。

「温かい食事と士気の関係も馬鹿にしたもんじゃありません。

数十日間冷や飯を食べさせられた場合を考えてみて下さい」

阪神淡路大震災では地域ごとに立ち直りの速度が違い、食事に差が出た。

もし自分のところがカンパンで、

隣の地区が温かいお握りと豚汁なら、どう思うだろうか？

自分なら絶対に文句を言う。命を掛けた仕事をしている兵隊ならなおさらだ。

数十日間、冷や飯を食べせ続けたら軍の士気はガタガタになる。

「ふむ、そうだな。それでは次に必要なものは？人材か？」

「もちろん優秀な人材も大事ですが、

もし戦闘が起こったとしてその場に人材が居合わせないと話になりません。

戦場に遅れてやってくるなどもっての外です。そこで、

戦場

対 勝利
対 引き分け

(戦力外)

戦場に遅れてやって来る優秀でお馬鹿な人材、馬があれば間に合ったかも。

×1で白側の勝利

こうして、バラバラに撃破されることを各個撃破されると呼び。

力を一箇所に纏める行為を戦力の集中と呼びます。

足を揃えなくてはいけません。

よって次に必要なものは馬車や船といった輸送機関になります」

「加えて、兵士達へ食事と武器、衣服や雑貨なども運ぶ必要がありますから、

更に馬車は必要となります」

「どれぐらい必要なのだ？」

「食料だけで1日戦闘行動などを行った際必要とされるエネルギー量は5000キロカロリー、

平時の活動では3100キロカロリー、

一般的な生活をしている場合では2300キロカロリー程が必要となります。

ソ連軍は7000キロカロリーが必要と計算していましたが、あそこは過酷な環境なので

実際そんなものかもしれません。時と場合によるということです」

軍隊の戦闘糧食と言えばレーション。

ちなみにレーションを食べた感想で多いのは量が多すぎるといった類のことである。

これにはちゃんとした理由がある。

軍でもよっぽどの事がない限り、飯は皿で食べるものとされている。昼食中に襲われるなんて襲撃された時点で負けだし、

台所でちゃんと調理された飯の方が美味しい。

だからレーション、手軽な携帯食料が必要とされる状況は、戦闘時又はそれに順ずるものとされる。

戦闘時を想定した消費は5000キロカロリー、

一般的な生活では2300キロカロリーからも判るように、

野山を60kgの背嚢を背負って這いずり回るのでない限り、そんなに腹は減らない。

だからレーションは残してもいいのだ。たくわんがなくなったのは残念でならない。

「きろかるりー？」

「熱量の数字です。精米済みの米1合、コップ一杯分のカロリーは………確か570です。」

なんとなくていいからそんなものと思ってください」

困ったな、どう説明したらいいんだ。カロリー計算なんて、俺は栄養士じゃない。

栄養士つて食材や調理法ごとのカロリー値を覚えてるのか？

だとしたら凄いなと思う。

「米だけ用意すればいい訳でもなからう」

「偏った食事を続ければ病気になります。ビタミン不足による脚気なんか有名ですね」

「かつけ？ビタミン？」

「脚気は足むくんで痺れる病気で、酷くなると死ぬらしいです。」

船乗りに多いとされた病気で、

病院ではハンマーで膝を叩いて跳ね上がるかどうかで診断する方がよくとられます。

他には炭水化物、白米を食べ過ぎるとなるらしいですね。

ビタミンは栄養素の一つで、糠漬けやすっぱいものにはいいと思います。

他はビタミン不足になると、風邪の形が出来やすくなるそうです。ようは色々食べるってことです」

脚気は昭和頃まで流行っていた病のひとつで、療法が確立された病としては新しい部類に入る。

米を主食にしていた当時は日本特有の風土病と考えられていた。

栄養素の不足に関する風土病は多い、昆布が薬として用いられていた時代があるのだ。

穀物、肉、野菜、果物をバランスよく取ることを目的とした

中国の医食同源思想は現代栄養学の先駆けといえるだろう。

「ふむ」

「後、忘れられがちですが、物を運ぶために物が必要となります」

「馬と船か」

「馬を働かせるために飼葉と水も必要です」

「そうだな」

「大量の飼葉と水が必要ですよ」

「そこらに生えてる草を食べさせれば良いだろう」

「そもそも簡単にはいきませんが、少数ならいいですが軍が移動するとなると万人単位です。」

それらを運ぶため万単位の馬に食べさせたとしたら、周囲の草原は丸裸になるでしょう」

A地点：維持可能コスト2

：戦力2

B地点：2

C地点：2

D地点：3

つまり、ある程度の馬を維持し続けるためには分散して配置しなくてはいけない。

分散配置は各個撃破される原因の一つでもある。

無闇に分散させないため兵站が存在していると言い換えてもいい。

「森には草が沢山あるではないか」

あなたはムツチーか。インパールですか。

一足す一は日ごろの行いと根性で四十ですか。

馬は平地の生き物で、森で暮らすようには出来ていない。

「そりゃ、馬だって好き嫌いはしますよ。

あなたもリンゴは食べるけど、雑草は食べませんよね。

馬って生き物はデリケートなんです。箱に入れるだけでストレスで体調を崩すんですよ？

船で運ぶのさえ一苦労です」

「よつは馬を産まれた場所以外で働かせる場合、苦労する訳か」

「同時に馬のための糧秣をまた運ばねばなりません。

距離が開くほど輸送そのものに掛かる物資は必要となり、運べる物資は反比例して少なくなります」

C地点

B地点

A地点

* は1つで3輸送力をもっているとする

一区間で2輸送力を消費する

Cに届く頃には27輸送力使用して3輸送力しか届かない
これと同じことが経済にも言える、

27億円の税金を使って3億円の経済効果しかないなどだ。

『エイベックス死ね説』 『経団連死ね説』 『税金の無駄遣い』 『中
抜き地獄』

などの事例がある。

「一説に馬が牽ける重量は馬自身が食べる飼い葉、水の七日分程度
とされています。」

加えて、馬を操る人の食料も必要となります。

強引な計算ですが、

馬の牽ける重量・(馬の飲食量+荷主の飲食量)＝現地に届く量
と表すことが出来ます」

C地点では3輸送力分の兵力しか展開できない。

C地点(現地へ届く物量3)

B地点

A地点

ちなみにこれは、街周囲で取れる飼葉が足りなくなるほど大量に運用（千、万単位）

した場合であり、自活できるならそれに越したことはない。

重要なのは、馬を維持するコストが非常に掛かることだ。

馬は毎日人間の十倍飲み、十倍食べ、十倍働く。

自動車のように、ガソリンを入れればそれで終わりではないのだ。

働かせずとも毎日食費が掛かるのが大きい。

「そして、

馬が牽ける最大重量は七日分程度 > (馬の平均移動速度 × 稼働時間) × 日数 ÷ 距離

の図式が成り立ちます。

この距離が攻勢限界であり、

馬が牽ける最大重量は七日分程度 > (馬の平均移動速度 × 稼働時間) × 日数 ÷ 距離 ÷ 2 (往復)

が戦力を保持し続けられる (略奪などをせず立ち止まっていられる) 補給限界となります」

「頭が痛くなってきた」

「現実にはもつと低くなるものと予想されます。

荷の積み下ろし時間、休養、途中での損失、余裕、道路の幅と状況、

大量に運用する場合の速度、荷物決済、品質保証期限、保存法の違いなどがあります。

ですからより大量の馬が必要でしょう。

またこれらの運用を最小にする計算も必要です」

でもこうした計算は、実際やってから統計なりで修正しつつ判断するものなんだが。

知っていると知っていないでは天地の差がある。

「頭が破裂しそうだ」

話してる自分もそう思う。

「武器を揃える前に兵士を戦場へ並べないと話にならない。

兵站と戦闘力には密接な関わりがあると理解していただけただし
ようか？

では今日の講義を終わります」

そう、たとえ強力な兵器があつたとしても使えなかつたら意味が
ない。

マウス…紫電改…ドーラ…まともに戦場に辿り着かず、

歴史に埋もれたばかりのかんがえた超兵器は枚挙に暇がない。

「以上で講義を終わります。

今回の内容は『質と量の関係』 『量が重視される理由』

『私の代わりは他に居るもの、たぶん3人目』になります」

私の代わりは他に居るもの、たぶん3人目（前書き）

素人は戦術を語り、玄人は兵站を語ると言います。

どうして戦術より兵站が大切なのでしょう？

『人材』『代替品』『補給』の点から『量が重視される理由』について解説します。

私の代わりは他に居るもの、たぶん3人目

私は講義を受けている。分野は軍事。
相手はカツヒコ教授。

中背中肉、黒目黒髪、東方人風の眼鏡を掛けた冴えない男。
見た目とは裏腹に、若くして教授の資格を持ち、国を救った英雄だ。
数々の商売も手がけ、羨望を一身に集めている。

非常にものを知っているくせに、何も知らない不思議な男である。
商売や軍事、芸術、文化、そこらの専門家よりよっぽど詳しいのに、
銀貨一枚でナウマタサウ一つ買ってきたりと抜けている。

「前は『食料』『輸送』『維持』の話をしましたね。
今日は『人材』『代替品』『補給』がテーマとなります」

カツヒコは黒板に『兵站』と書いた。

兵站とは輸送、輜重兵の仕事だ。

カツヒコが持ち込んだ新しい概念である。

彼の講義は毎回斬新な発見があつて楽しい。

「質問だ」

「どうぞ。姫」

「『質と量の関係』『量が重視される理由』はテーマに則している、

『私の代わりは他に居るもの、たぶん3人目』が意味不明だ」

「ああこれは、とある物語の有名な台詞で…クローンの少女が…

おっと、脱線させて授業放棄させようなんて無駄だぞ。

ちゃんと関わってくるから問題ないですよ」

「姫、講義を忘れてないか試験です。前回の要点を答えてください」

「兵を維持するためには食料が必要、
輸送を維持するにも食料が必要で、
兵を輸送するために馬などが必要である」

『兵士』 『食料』

『維持』

『輸送』

それぞれが密接に保管し合い、どれが抜けても軍は成り立たない。

「食料を物資、兵士を組織と言い換えても成り立ちます。
食料を金に入れ替えるのも有りですね」

例

A B C

『兵士』 『食糧』 『輸送』

『組織』 『物資』 『代替要員』

『職員』 『金』 『移動』

『人員』

『機材』

* 同じことが軍事以外でも言える

組織の構造上、会社と軍は非常に似通っている

「部隊を揃え輸送し戦闘を行った、次に必要なものは？」
「更なる食料…の補給？」

動いた後は腹が減る？

「食事を途切れさせないのは当然だが違う」
「物資？」

弓矢の補給と鎧を補修。

馬も必要ね。飼葉と水の用意も。

服や布、毛布、木材、ロープ、燃料、運ぶ資材はたくさんある。

「それも違う、物資と食糧は前回話したはずだ。ゴミの回収も忘れてはいけないね」

鹵獲品と破損資材の回収、修理ね。

ゴミ回収と使える物の選別もしないと。

「人ですか？」

「どうしてそう思う？」

「怪我をするから交代しなくてはいけない…？」

「正解だ。怪我をすると戦闘能力が落ちる、

戦場は怪我人が生き残れるほど甘くはない。

だから敵の心配のない後方へ送る。怪我人と代替戦力を入れ替える。

兵士の『代替品』を連れて来なくてはいけない。

死体なら埋めるとりタグを集めたり指と耳を切り取るなどして処理し、

怪我人なら護衛を付けて搬送します」

「ちなみに効率を突き詰めると、怪我人とは厄介なものになります。まず運ぶ人員が必要となる、護衛も必要だ、生きてるから飯も食う。

戦えない無駄飯喰らいが増えるので困ります」

1：怪我人

<足を折られちゃった、シット！

<大丈夫か？助けに来たぞ

戦線から離れる人員1人

2：搬送

<担架に乗せて運ぶ

戦線から離れる人員3人

3：護衛

<お前らの護衛だ

<基地まであと少しだ、頑張れ

戦線から離れる人員5人

3.5：輸送

<全員馬車に乗れ

輸送人員1人

4：飯

<日が暮れそうだからキャンプを張る

<働かずに食う飯は不味い <馬の様子見てくる

<見張りは任せてもらおう <俺、飯作るわ

必要な食料6 + 1人

5：治療

<戦線に戻るか

?<オペの準備を

?<了解

動いた人数7人+治療を行う人員

「一人の怪我人を出させることで、より多くの戦力を戦線から外す、すなわち戦力を削ることが出来ます。

間接的に兵站へ圧力を加えていることになります。

これが威力が高い武器となると」

1

<.....

<ミンチよりひでえや・・・

損失人員1人

2

<ちくしょう、仇はとってやる

<遺品を持っていこう

「と、なります。殺傷能力が半端な方がかえって厄介です」

「そうになると、全体のために一部の部隊を切り捨てる場合が出てきますよね？」

その方が効率が良いんですから。殺すんですか？」

「味方を殺す訳にいかないだろ、常識的に考えて。」

殺さなくても兵站をきればいい。物資が途絶えた部隊は自然消滅

する。

そうしてみすてられた部隊ってのは過去限りなく存在するのです。
「運がよければ生き残ります」

<矢持つて来い！アパム！アパーム！

「大抵、補給が途絶えた部隊の末路は悲惨なものになりますけど」

<アパムめ、裏切りやがって！ぐふっ…

「酷いものだな」

「別に珍しいものじゃない。

災害医療の現場でも、助かる者から助けると決まっています。
死が確定してる奴に手当してもしょうがない。

ある意味、株の損切りに似ています」

「株って食べる？」

「手形のようなものです。より損をする前に売ってしまうやり方です」

「代えの人員が必要なのは

兵站的な理由のほかに、戦力的な穴埋めもあります。

2対1では勝てないと前回言いましたね。

だからこそ『私の代わりは他に居るもの、たぶん3人目』
が出来る人員が必要となるのです」

* は同じ強さとします

戦場

対 引き分け

対 引き分け

「戦力に穴が空く、埋める事が出来ないと更に傷口が広がる」

対 引き分け

対 黒勝利

「穴が空くと、敵が有利になる」

対 黒勝利

対 黒勝利

「ところで人員を物資と考えないのか？人員は広い意味で物資の範疇に入らない？」

人を『代替品』と呼ぶのなら、ものとして考えるほうが辻褄が合う。

「姫は怖いことを言うな……。人を消耗品として扱う考え方もなくはない。」

指揮官の考え方としても部分的に正しい。

事実、人員を使い捨てる軍隊は今だ存在する。

数十年前まではある大国が使い捨てていたことから、それなりに有効な手段でもあろうと考えられる。しかしそれは世界的な流行ではない」

カツヒコは思うところがあるのだろう。

噛み締めるように話した。

「随分予防線を張ったようだが、な？」

「世論の影響やイデオロギーの発達などもあるが、

一番の理由は人材を育てるのに時間が掛かるからだ

加えて個人的な感情だが、人を使い捨てるのは好きじゃない。

自分が居た世界では、ドンパチにぎやかな大戦争は終わって、

経済戦争に変わっていたのも理由かな。

他にもあるが次回の講座で話そうと考えています」

本質は人も物と変わらない、だからこそ認めるわけにいかないかね。

戦争で最大の功労者でありながら甘いものだ。

「思いついたぞ。人を使い捨てたくない訳だ。

物資は生産できるが、人員は替えが効かない。

矢や剣は幾らでも工房で生産できる、食糧は1年で収穫できる、

人は育って教育して訓練するのに十数年かかるからだ」

「いや『時間が掛かるだけ』。ここ重要です。今回の要点です」

「兵士になるには訓練がいる。軍隊とは専門者集団です。

弓の引き方から始まって、剣の持ち方、隊列の動き方、皆専門技術です。

逆に考えると、『一定の質』を確保できれば兵士として成り立つ

「よって『質と量』を揃えなくてはいけない。どうすればよいでしょうか？」

「教育？」

「50点。」

一律の共通した教育が必要です。

まず組織は集団活動、共有した認識が重要です。
次に組織は『代え』がきかなやいけません。

『兵站』『補給』の重要さはさんざん話したから理解していると思います。

同じ技術を同時に習得させた方が安く出来ます、店の仕入れと同じです。

同じような人員が揃えば管理も楽になります、これも店の商品棚と似ています」

「皆が同じ戦術を使うと、簡単に対処法を編み出されるのではなくて？」

「全体の質向上を思えば、利益は損益を上回ります。

たかが数十人の異なった流派の戦術が、全体にどれだけ影響を与えます？」

数十人が数百数千人の行う足並みの揃った戦術に勝てますか？

沢山の違う流派の戦術家を指導して組織を運営してゆくのは大変だと思えますよ」

問題：君は道場主で舟木流の師範だ。どちらが指導しやすいか答えよ。

A 道場

門下生：虎目流

門下生：小野派一刀流

門下生：鐘捲流剣術

門下生：柳生新陰流

門下生：鐘捲流剣術

門下生：中条流

門下生：天真正伝香取神道流
門下生：神夢想林崎流
門下生：神道無双流

B 道場

門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流
門下生：舟木流

『一定水準を満たす質』を用意する。
これが兵站の目標であり、『質と量の関係』だ。
同種の教育を施すことで、替えの効く水準の人材を確保できる。それ
も大量に。

「質が大事ではないか？」

一人で二人の仕事をやれた方が、兵站到負担を与えずに済む」

「そこそこ仕事が出来て、

足手纏いにならない二人が居た方が全体として安定します。

毎回優秀な人材を育てるのは難しいですね。

『量が重視される理由』を話しましょうか」

<仕事を普通人の3倍出来ます
<給料2倍で3倍の仕事やってね

<すみません、風邪で休みます
<3人分の仕事どうすんだよ

2

<凡人です、一人分の仕事しか出来ません
<今年是不作か

<すみません、風邪で休みます
<しょうがない、二人にはがんばってもらおう

全体としては安定する

*但し高レベルの仕事は優秀な人材でないと処理できない

おまけ：ブラック企業

<お前らには5人分の仕事をやってもらう。納期は…
<……………(首を切られると他へ行けなくなるので黙っ
ている)

能力を超えた仕事は当然成功するわけもなく。

<すみません、失敗しました

<ああん！？ナメてつと殺すぞ！

社会ナメてんのか底辺が！ニートが！死ね！

<俺、辞めるわ。病みそう。

入った先に辞めてゆく。

<新しい仕事だ。お前らには6人分の仕事をやってもらう。
納期は…

<……………（また無茶な仕事押し付けるよこの人）

無計画に人員が抜けることで、即戦力が必要になる。

<派遣から来た　さんだ。

<……………（とんでもないところに入ってしまった）

<辞めます

無茶な仕事についていけず、新社員も使い物になる前に辞める。
キツイ仕事に社内の人間関係はギスギスし始め、以下無間地獄。

「均質な量と共通認識が組織の隅々まで行き渡ると、
大規模戦術が可能になる。戦術教義、ドクトリンである。
また、ドクトリンによって個々の戦術とは一線を越えた戦略が可
能になる」

「大規模、戦術？戦争は既に大規模だぞ？」

「一定の方向性を持った戦闘活動です。前回の説明を思い出してく
ださい。

矢の撃ち方、身の隠し方、これらは個人の『戦技』になります。
隊ごとの組織運用になると『戦法』です。

これまで共通認識がなかった時代では各隊長による

『戦法』までが限界でした。均質な教育によってより高い質の運用

『戦略』が可能となります。

数百人規模の戦術が、数千数万規模になるのです」

ドクトリン
? < 戦略

< 戦術

< 戦法

< 戦技

「ドクトリンの存在によって下位の戦術は体系的に纏められ、訓練はより効率化されます。

状況ごとに戦術、戦法を使い分けられるようになったからです」

「数千数万を指揮するにあたり、

低い能力を持つ者が高い者の平均の中へ埋もれることとなります。

逆に考えると、低い能力も活躍できる場が与えられるという意味

でもあります」

< 僕が一番上手くガンダムを使えるんだ！

< 俺もいるぜ、お前だけになんかイイかつこさせる

かよ、

おまえだけじゃないんだぜ、コーホー

? < 私にいい考えがある

?

< コンボイ司令！（司令は脳筋だからな、覚悟し

よう）

? < 全員ガンダムに乗ればいい

< なにそれ怖い

* 最近のガンダムは量産されています。

「『平均的な質の上昇』は『質』そのものの意味を危うくする」

<昔はタイプライターが打てただけで専門職に入れたのさ
?<ベトナム戦争時代の米映画を見ると、タイプする事務
員が出てくるね

<タイプライターって文字しか打てない、ワープロ以下のアレですよ

<ハハツ、楽な仕事だな

「個人の『質』が重視されなくなる戦争、それは『量が重視される理由』であり、

国家的な総力戦であり、物量戦である」

<ジャーン、ジャーン、ジャーン

<げえっ！換羽！

*換羽は一般人の十倍のエネルギーゲインを誇り

ます

????????<ジャーン、ジャーン、ジャーン

*量産型換羽は換羽を凌駕する性能を誇ります

<げえっ！量産型換羽！

質の上昇によって個人の武勇を誇った時代は終わりを告げた。

「教育法とシステムの発達によって、人材の質は上がり、平均化し、大規模戦術化によって些細な戦術の違いが、大勢に影響を与えることがなくなった

と言葉をまとめたところで講義を終わります。

今回は『紅白力押し合戦』『増える物量』

『戦いはこの一戦で終わりではないのだよ』です

ヒト、モノ、カネ（前書き）

素人は戦術を説き、プロは兵站を語る。

兵站講座第三回。今回のお題は『物資』『消費』『戦力』

兵站とは戦闘力、その訳。

ヒト、モノ、カネ

「一回目は『食料』『輸送』『維持』。

二回目は『人材』『代替品』『補給』がテーマ。

三回目のお題は『物資』『消費』『戦力』となります」

「今回の説明で『馬鹿でもわかる兵站』は、
キリが良いので一旦区切りにさせていただきます」

「何故なら組織運営、ひいては兵站の基本

『ヒト』『モノ』『カネ』が一通り説明出来たからです。

んなもん説明してねーじゃねーかと思っただそのあなた、

お題の言葉を額面通り受け取らずに

頭の中で少し弄ってみてください」

『食料』『輸送』『維持』・・・「飯、給料の保障が無いと人は働
かねえよ。」

「仕事先の交通費くれよ」

『人材』『代替品』『補給』・・・「人が居ないのに仕事なんて出来
るかよ」

『物資』『消費』『戦力』・・・「電話もないのに仕事なんて無理」

「長々と説明したそれぞれのお題ですが、
言いたいことはこの程度だったりします。

科学の証明問題を解くために長々と公式を書くのと同じように、
単純なものの説明をするのは意外と面倒なのです」

『ヒト』『モノ』『カネ』と聞いてビジネス用語じゃないか！と
考えた方。

大正解です。

商売も軍事も効率性を求める組織であり、実態は非常に似通っています。

また、どれが掛けても軍は成り立ちません。

軍隊は非営利組織だ、生産性皆無だ！

商売みたいに金なんて求めない！とよく言われます。

軍隊の求めるものは抑止と平和、商売は金や利権、と全く別物で一見間違いのように思えます。

目指すものこそ違つかもしれませんが、

組織である以上そこには金、物、人が動きます。

「『兵站の目標』が『よりよい円滑な組織運営』であるからには、軍事と商売の通じる箇所は多々あります」

それでも軍は非営利組織と言うのなら考えてみて下さい。

自衛隊員だって給料を貰います。飯も喰います。休みも取ります。給料減ったら嫌になります。美味しいもの食べたいです。休みも欲しいです。

非営利でもそこに働いているのは人間です。

機械ではありません。常によりよい職場環境を求めています。

兵士達によりよく効率的に働いてもらう仕事環境を整える仕事こそが兵站です。

「第一回では戦場へ来るための足について、

第二回は戦場へ並ぶ兵士達についてでした。

第三回は兵士達の武器についての説明となります」

前回は、

「教育法とシステムの発達によって、人材の質は上がり、平均化し、大規模戦術化によって些細な戦術の違いが、大勢に影響を与えることが少なくなった」
という言葉で締め括りました。

「では、敵味方の兵士の質と戦術の違いが影響を与えなくなると、何が大量を決めるのでしょうか？」

『彼我の物量と戦場に並ぶ数』が結果を反映します。
並ぶ数と方法については第一回で書いたので省きます。
なので彼我の物量について説明します。

昔から戦争には金が掛かります。

弓、矢、剣、鎧、馬、食糧……… e x t e x t

戦争を支えるために多くの物資が用意され、消費されます。
戦場で物資を使うためには戦場へ運ばなければいけません。
よって、兵士と必要な物資を戦場へ並べることがとなります。

『兵員を含めた物量』の多い側が戦闘を有利に運ぶことが出来ます。

「物と人を集中すれば勝てる。当たり前だ。お前は何を言っているんだ？」

と読んだ方はお思いかもしれません。

軍事という要素においては特別『輸送力は重要である』と強調したかったからです」

古来から物資量と戦闘力の上昇は密接な関係があり、
『変革ごとに多量の物資』を必要としてきました。

『増える物量』

弓と槍で戦うだけだったのが、

装備：弓、槍、食糧 2 / 3 日分
装備重量：3 k g

鎧を付け

装備：弓、槍、鎧、食糧 2 / 3 日分
装備重量：6 k g

やがて馬を使い、『大量の飼葉が必要になった』

装備：弓、槍、食糧 7 / 8 日分

装備重量：8 k g

馬

移動距離が伸びることで遠征が可能になり、陣地構築の必要も出てきた

『スコップなどの陣地用道具』『食糧とテントなど生活用品』『野外炊具』

装備：弓、槍、食糧 7 / 8 日分

装備重量：8 k g

馬

銃を使い始め、『弾を消費するため装備重量が増した』

装備：銃、弾薬、食糧 7 / 8 日分

装備重量：10 k g

馬

やがて機関銃が登場し、『弾薬費が10倍』になり

*多量に弾をばら撒ける機関銃の登場によって消費量が跳ね上がった

装備：機関銃、弾薬のみで

装備重量：120 k g

砲兵が登場し、『更に消費弾薬が増大』

通信機や観測機器も必要になり、『通信機や暗視装置など』

戦車を動かさなければいけなくなり、『戦車の重量』、『修理と、燃料激増』

トラック『燃料と修理』

科学防護『防毒マスクや汚染除去車』

戦闘機『遙かに戦車を上回る消費』

ヘリ『燃費が最悪』

重機の使用『ブルドーザーなど』

と、戦争で消費される物資は変革が行われる度に増加しています。これが兵站、つまりは輸送が重要視される理由であります。

今後も無人機使用や近接戦闘の機会増加による重装甲化を鑑みて、消費物資の増大は止まらず、兵站にはますます負担が掛かるものと予想されます。

昔は弓と矢と食糧だけ持っていれば良かったのが、

今や機械化されていない兵士でも一日に6・7キログラムの補給物資を必要とし、

現代の近代化された装備を持つ陸軍兵士は一日に約45キログラムの補給物資、

海軍部隊の水兵は180から270キログラム、

空軍部隊の航空兵は450キログラムもの補給物資を要するとされています。

*陸は自動車、海は船、空は飛行機を使用するために物資を必要とする。

陸海空の順に燃費と保守に金が掛かる。

たった1500名からなる陸軍部隊が一日に所用する補給物資でも67500キログラム、67.5トン。

この数値には装甲車、迫撃砲とその弾薬、防空火器とその弾薬、通信機などの装備は入っていない。

実態はこの数値よりも増えます。

軍事上、きりのいい数字である陸軍一個師団単位にすると、約1万5千人、一日675トン。

戦時編成になると師団の人数が増えるので2万人近くになると予想され、

まだ増えます。

海空師団は更に更に手間が掛かります。

まだまだ増えます。

「物資」 ざわ・・・

「物資」

「物資」

「物資」

「物資」

「物資」 おざわ・・・

「物資」

<ククク…！圧倒的勝利…！

<勝ちの布石をまた一つ積んだつもりがすでに積みすぎ…！

！倒壊寸前…！

具体的な量を推測するのに移りましょう。

近代の地上戦闘では、1日ごとに1-5%程度の人的損耗を受け、戦闘車両はその5-10倍程度の損失が発生するという見積もりがあります。

この計算では機械化されていない歩兵部隊は兵士1名に対して1日に7・65・13・5kg程の補給が求められ、現代の機械化された戦闘部隊では90・100kg程度の補給が必要とされます。

これに基づいて概算すれば、戦闘状態にある15,000人規模の1個師団には、毎日1,500t程の補給物資が必要となります。

*機械化とは装甲化されたトラックなどを使用し、戦車の移動に追従できるようになった部隊の総称である。

<完全機械化兵の《高速戦闘モード》は【肉体】【感覚】判定で成功したダイスを振りなおし、再くうるさい黙れ

*間違ってもサイボーグではない。

第二次世界大戦前後から呼ばれ始めた言葉で、装甲化されていないトラックなどが主力の場合は自動化部隊とも呼ぶ。

複雑なものを使うには物資も必要なので消費量が跳ね上がる。

余談だが、トラックの配備が進みつつある昨今、

自動化、機械化という呼び方はあまりメジャーではなくなりつつある。

今や戦場は巨大な物流システムが支配している。

物量のぶつかり合い、『紅白力押し合戦』な戦争では個々の戦術など微々たるものでしかない。

兵站とは戦闘力である。

いかがでしたでしょうか。

「素人は戦術を説き、プロは兵站を語る」

全てを解説出来たわけではありませんが、

彼らが兵站到こだわる理由の一端でも感じていただければ幸いです。

ヒト、モノ、カネ（後書き）

書き忘れたことがいくつかあるので
番外編『戦いはこの一戦で終わりではないのだよ』に続きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7749j/>

馬鹿でも判る兵站輸送

2010年10月11日00時46分発行